

生命あふれる豊かな森を次世代へ――

くまと森と人

2024. 冬
vol.4
Total 117

野生動物との共存、

豊かな森保全・再生のための実践活動を全国で

特集

自然保護団体と猟友会が考えるクマ問題

必要なのは「えさ場再生」「被害防除」「くくり罠対策」

- ・指定管理鳥獣 初年度からクマ、不適格と判明
- ・「稚内」風車ができたらヒグマが出て来た
- ・くまもり顧問のリレーエッセー「私と原生林」 宮澤正義





会長
道余市町で地元の方のお招きにより「風力発電による森林破壊の実態」のタイトルで講演。翌9日石狩港湾の陸上風力と洋上風力を視察。ていっていました。

野生動物との共存、豊かな森保全・再生のための実践活動を全国で

会長 室谷悠子

クマたちと水源の森の危機に一丸となって対応

いつも応援いただきありがとうございます。

クマの指定管理鳥獣化に反対する活動で幕を開けた2024年は、全国の支部や会員のみなさんと一緒に駆け抜けた怒涛の1年となりました。

クマとの軋轢^{あつれき}や再エネによる森林破壊が深刻な北海道や東北でも熊森活動が活発になってきています。

昨年度、生息推定数の半数を超える2300頭のクマを捕殺した秋田県でも支部が誕生し活動の輪を少しずつ広げています。北海道支部では、釧路、稚内、札幌で次々と集会を持ち、道庁へ要請したり、猟友会とのつながりを広げたりしました。青森県支部では、風力発電開発から奥入瀬溪谷等の貴重な自然を守るために他団体と協力して街頭活動を大展開、宮城県支部でも、住民のみなさんと一緒に動き、開発を止めることができました事例も生まれ始めています。山口県支部や広島県支部では、次々とお話会を開き、会員の輪をどんどんと広げています。

他の地域でも、熊森の支部や会員が、豊かな森や野生動物を守るために活躍をしています。各地で自然保護の最前線で踏ん張っている会員がいることは会長として本当に誇らしいです。

かくいう私も、再エネ問題について話をしてほしいと呼ばれることも増え、全国を飛び回りました。

無断転載禁止

巻頭言	野生動物との共存、豊かな森保全・再生のための実践活動を全国で …………… 2
特集	シンポジウム 自然保護団体と猟友会が考えるクマ問題 …… 4
クマ保全	指定管理鳥獣 初年度からクマ、不適格と判明 …… 7
再エネ問題	「稚内」風車ができればヒグマが出て来た …………… 8
東北遠征	再エネ事業による森林破壊を止めねば日本が破滅する … 10
学会・受賞	第13回日本奥山学会研究発表会開催 「社会貢献支援者表彰」を受賞 …………… 11
支部活動	新支部長あいさつ・支部活動 …………… 12
顧問連載	くまもり顧問のリレーエッセー 宮澤正義 顧問 …… 15
保護くま	くまと過ごす日々 …………… 16
お知らせ	…………… 18
顧問・企業会員・団体会員	…………… 19
入会のご案内・編集後記	…………… 20



2024年12月9日 石狩市洋上風力視察 室谷悠子会長
12月8日、森林を破壊する大規模風車計画のある北海道余
柏の広大な原生林が残る沿岸部が一大風車地帯に変わってい



2002年に植樹した数本のクリの木に毎年クマが来る2024年10月8日10時17分
兵庫県但東町（くまもり自動撮影カメラ）

全国に実践活動の拠点が必要

私たちの必死の活動にも関わらず、水源の森を破壊する再エネ開発が各地で拡大し続けており、野生動物と人の軋轢がいつそう激化しています。

また今秋は、西日本の山の実りが14年ぶりの大凶作で、集落に多くのクマが出てくるも対応できず、京都、兵庫、鳥根で大量に駆除されました。

厳しい現状を打開していくために必要なのは、28年間本部が取り組んできた奥山保全・再生や、野生動物の被害防除の実践活動を全国に広げていくことしかないと考えています。今、その時期に来ていると感じます。

現状を変えるため、地域を巻き込んだ活動が確実に根付き広がるように、来年も支部を精一杯支援し、全国のみなさんとの取り組みを進めていきます。

会員のみなさんも、熊森の本部・支部活動をぜひ応援ください。

無断転載禁止



シンポジウム 自然保護団体と猟友会が考えるクマ問題

現場を見続けてきた専門家が集結

主催：日本熊森協会

当日動画：前半1時間40分、後半1時間、
youtube「くまもりチャンネル」から視聴可



必要なのは

「えさ場再生」「被害防除」「くくり罠対策」



特
集

今年4月、環境省は昨年クマの大量出没があった北海道・東北6県・新潟県の8人の知事の要望に従い、絶滅寸前の四国のツキノワグマを除く全クマ類を、シカ・イノシシに次いで捕殺強化のために法律化された「指定管理鳥獣」に指定しました。

クマの捕殺強化が進めば、オオカミに次いで日本の奥山生態系で重要な位置を占めるクマが絶滅してしまうかもしれません。強い危機

感を持つ熊森は、同じような問題意識を持つ猟友会の会長や支部長、くくり罠への錯誤捕獲の実態を全国で初めて調査された元行政担当者ゲストを迎え、シンポジウムを開催しました。

100人会場は満席を超え、日経新聞や雑誌社の記者らも参加されました。

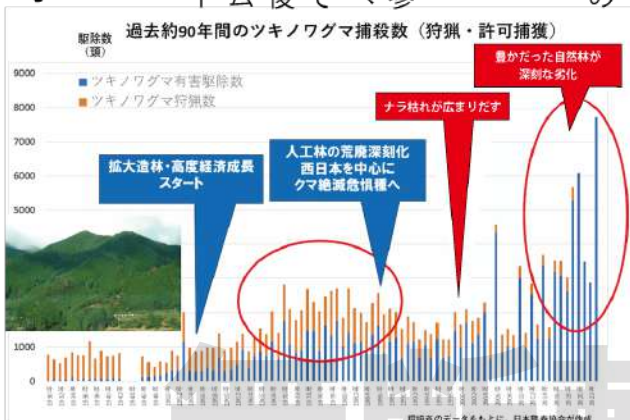
参加者の評価は非常に高く、この内容はぜひ動画発信すべきだという声を多くいただき、youtube「くまもりチャンネル」で配信しています。行政担当者を始め多くのみなさんに、ぜひ視聴していただきたいです。

以下に、4人の発表者の発言要旨をまとめました。

第1部発表

冒頭、熊森顧問である参議院議員の嘉田由紀子氏、片山大介氏、衆議院議員で環境委員会委員長の務台俊介氏からの、シンポジウム開催を祝うビデオメッセージが流されました。

発表者①
日本熊森協会会長室谷悠子



2度目の絶滅危機に直面





罾の増加が捕殺を押し上げている

野生動物の捕獲方法が銃から罾に急速に代わったことも、クマの捕殺数が激増した原因です。鉄砲を持って狩猟をする人は減っていますが、罾免許を持つ人は近年急増しています。

クマはとても罾にかかりやすい動物なので、ハチミツや米ぬかなどの誘因物があると問題行動がないクマでもかかります。かかると子グマでも親子グマでも殺処分してしまう自治体が多く、安易な罾の設置が捕殺数を押し上げています。

生息地の保全と被害対策が捕殺より重要

クマが帰れる豊かな森を再生し奥山を聖域化することが、クマとの共存の大前提です。また、今クマが出て困っている地域に対しては、被害対策の普及が不可欠で、捕殺よりはるかに重要です。

熊森本部は、兵庫県でクマの被害対策に取り組んできました。自治体や集落の

要請を受けて、クマの移動経路の草刈りや、集落内の柿の木の実をもいんだり、時々は伐採したりして、クマを集落に入らせない対策に取り組んでいます。捕殺に頼らない共存の取り組みを全国に広げていくことが重要です。

発表者②

岩手県花巻市猟友会会長
藤沼 弘文氏



シカ・イノシシがクマの餌を奪っている

岩手の山というところ、豊かな自然林だろうと思う人もいるでしょうが、実は人工林も多く（人工林率44%）、山は放置されて荒廃。もう奥山にクマはいません。

私が狩猟を始めた58年前は、地域にシカやイノシシはおらず、クマはとても貴重でした。福島原発事故後2、3年して、シカやイノシシが異常に増加し始め、山中のクマのエサを洗いざ

らい食べてしまします。そのころからクマが山から出て来始めました。

クマ殺処分の原因は全てくくり罾

私の地域では、シカ・イノシシ対策として仕掛けたくくり罾に対象外のクマが大量に錯誤捕獲されています。放獣体制がないため、全て殺処分です。くくり罾の規制緩和をやめて直径12cm真円に戻せばかなり改善されると思います。大日本猟友会も環境省に強く要望しているのですが、いまだに実現しません。

くくり罾に錯誤捕獲されて足を切断された動物たちが多くいますが、あれはくくり罾のほとんどが、ストッパーをかけずに使用している違法罾だからです。

発表者③

福井県あわら市猟友会
金津支部支部長 吉村 嘉貴氏

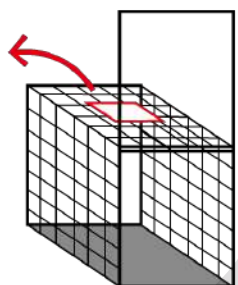


徹底した被害防除柵と箱罾で、田畑の被害激減

私は農家で15haの作付けをしています。あわら市の農作物被害の99%がイノシシです。以前は山中の獲りやすいイノシシを獲っていましたが、田畑の被害は減りませんでした。山の中にいるのは加害個体ではないのです。

方針を変えて、固定柵や電気柵を使って田畑を狙ってやってくるのを徹底的に防ぎました。最終手段は田畑に設置した箱罾です。これで、農作物被害は激減。猟友会と市で協力して、全ての罾の位置情報をネットの地図上で共有したり、センサーカメラの使用など、ハイテク技術を導入しています。

福井県ではクマは保護対象動物ですから、箱罾の上部に30cm×30cmのクマ抜け穴設置が義務づけられています。クマは自力で脱出できません。



クマ抜け穴イメージ図

くくり罠使用は熟練者のみに

福井県でのクマの錯誤捕獲の9割はくくり罠です。しかも、ブナの原生林の中に掛けられたシカ捕獲用罠による錯誤捕獲です。地域おこし協力隊の隊員が、狩猟免許を取って1年目にくくり罠を仕掛け、大量の錯誤捕獲を生み出しています。くくり罠は、獣が安易にかかる場所ではなく、仕掛けでも良い場所に仕掛けるものです。初心者向けの罠とされていますが、実は、獣道にどんな動物が歩いていくか分かっている熟練者でないと使ってはいけない罠です。狩猟者に対するものと厳しい指導が必要です。

発表者④
合同会社生物資源活用研究
所代表 竹下毅氏



有害鳥獣駆除は行政が実施

私は、今年の3月まで約

13年間、長野県小諸市の職員として鳥獣対策に従事していました。平成27年に許可捕獲を猟友会に委託するのをやめ、行政が有害鳥獣駆除をやることにして猟師の方に入っていたら、『実施隊』（特別職非常勤公務員）を結成しました。

行政が主体となったことでシカの捕獲数は増え、農業被害額も半分から3分の1くらいにまで大きく減少しました。日本で初めて錯誤捕獲の実態を明らかにすることもでき、日本哺乳類学会で発表しました。

ICT(情報通信技術)を使った見回り制度など、ハイクテク技術をどんどん導入し、錯誤捕獲があってもすぐ放獣できるような仕組みも作りました。

「ベアウォーク」でクマ錯誤捕獲ゼロ

小諸市の場合、北部と南部にシカの被害が集中している場所があり、クマが棲んでいるのは北部だけです。北部では「ベアウォーク」というクマがかりにくいくくり罠を配布し、これし

か使えないようにしました。その結果、年間20件くらい起こっていたクマの錯誤捕獲が今年には1件も発生していません。

クマとシカが生息している場所においては「ベアウォーク」のような罠しか使用してはいけないと環境省が強く指示を出せば、クマの錯誤捕獲に関しては激減させることができると思います。

第2部 パネルディスカッション

第2部は、室谷会長がコーディネーター役を担い、パネリストとして藤沼氏、吉村氏、竹下氏に参加していただきました。

くくり罠の錯誤捕獲問題



をどう解決したらいいか、実際のくくり罠を使って吉村氏と竹下氏が実演しながら解説するなど、興味深い内容となっています。

熊森は今後もクマと共存してきた日本文明が存続できるよう、心ある猟師のみならずや行政のみならずと、捕殺に頼らないクマ対策に向けて語り合っていきたいと思っています。

youtube でこのシンポジウムをぜひご視聴ください

「くまもりチャンネル」で検索



【発表編】



【パネルディスカッション編】

無断転載禁止

指定管理鳥獣 初年度からクマ、不適格と判明 捕殺強化しないよう各都道府県と交渉を

指定管理鳥獣：全国的に生息数が著しく増加していたり、生活環境や農作物、生態系に被害を及ぼしたりする野生動物で、集中的かつ広域的に管理（＝捕殺）が必要な種に対し、国が大幅な個体数低減をめざして捕殺強化のための交付金を出す制度。2014年に鳥獣保護管理法に新しく創生され、シカ・イノシシが指定されました。国は当時、指定管理鳥獣制度と農水省管轄の鳥獣被害防止特措法を活用して、10年後のシカとイノシシの生息数を半減させようと計画。年間、シカ約70万頭イノシシ約50万頭の大量捕殺を続けました。しかし、これらの種は繁殖力が強く、大量捕殺を続けたにもかかわらず10年後の今、シカ数も被害も減っていません。捕殺一辺倒の鳥獣対策の失敗です。イノシシは現在、ほぼ半減しましたが、これは豚コレラが猛威を振るった結果だとも言われています。熊森は、人間が捕殺によって野生動物の生息数をコントロールすることなどできないという自然観から、個体数調整捕殺や指定管理鳥獣制度に反対してきました。今春、伊藤信太郎環境大臣は熊森などの猛反対にもかかわらず、環境省令（＝施行規則）により、強引に指定管理鳥獣に、クマを追加しました。

クマ、不適格と判明 ヒグマの例から

北海道庁は、クマ指定管理鳥獣化によりヒグマ捕獲（＝捕殺）新目標を設定

目標：人里周辺の森林に生息する個体を中心に捕獲を強化し、2022年末の推定生息数1万2200頭を2034年末には約35%減の7931頭にする。そのため、年間捕殺目標計1329頭、10年間で1万3290頭を捕殺する。

兵庫県立大の横山真弓教授（野生動物管理学）は、問題個体の排除について、「問題個体になるまで待たなければいけないのかと思わせることなく、…予防原則に基づいて被害を防ぐのだ、そういった方向にかじを切っていただきたい」と発言し、問題を起こしていないヒグマまで積極的に捕殺することを推奨しているようでした。

今秋、山の実り豊作 クマが山から出て来ない

11月12日に報道されたUHB北海道文化放送の番組によると、今年の北海道はこれまで長年続いていた秋の山の実りが不作から一転して、10年ぶりにクマの主食であるドングリが大豊作です。

その結果、今年の5月～7月はいつも通りにヒグマが出没していましたが、秋以降の出没がピタッと止まって

いるそうです。

道庁は、今年、どのように1329頭のヒグマを捕殺するのでしょうか。ちなみに今年10月末までのヒグマ捕殺数は579頭。大量捕殺は、計画初年度から破綻です。



仲睦まじいヒグマの親子

クマ数の増加ではなく、エサの不足

クマが山から出て来る原因は、これまで研究者たちによってクマ数の増加とされてきました。しかし、熊森がずっと主張してきたように、山の中のエサ不足が主な要因であったことが証明されたと言えます。今後、ヒグマと人の軋轢が起きないようにするためには、再エネ事業などによるエサ場の破壊を止めねばなりません。

環境省担当者の配慮でクマ特別措置

クマ指定管理鳥獣化による国のクマ用交付金は、今年5億円です。捕殺以外の交付金がシカ・イノシシのように捕殺強化だけに使われないように、環境省はクマ対策の特別措置を作成していました。クマに対しては捕殺強化以外に4メニューあり、専門員の人材育成や侵入防止柵設置等の被害防除にも使えます。熊森の主張が一部取り入れられた内容でした。熊森の呼びかけに応じて、パブリックコメントで環境省に声を届けてくださった皆さんに感謝します。

特定鳥獣保護管理計画を立てていけば、クマ指定管理鳥獣の事業計画を立てていない都道府県でも、捕殺以外の交付金は下ります。

しかし、都道府県次第で、捕殺強化のみの交付金になる恐れもあります。浅尾慶一郎新環境大臣には、シカやイノシシと比べて繁殖力も弱く生息数が3ケタも少ないクマを、シカやイノシシと同列に扱わないように申し入れたいと考えています。交付金をどう使うか、今後私たちが注視すべきは各都道府県行政です。

クマが捕殺強化されて絶滅してしまわないように、みなさん、来年もがんばりましょう。

無断転載禁止

稚内

風車ができれば ヒグマが出て来た



北海道が 東京の再エネ植民地に

道北の稚内では、もうすでに稼働している大型風車が188基もあります。この1年間でさらに44基増えました。今後も続々と大量の風車計画があがっています。

日本の地方はどこも疲弊しているため、再エネ業者からの寄付金を期待しています。稚内でも市長以下ほとんどすべての議員が(2名を除いて)再エネ推進派です。

北海道の再エネ電気は、巨大な海底送電線を整備して東京に送られる方針です。

稚内の熊森会員から、どうしたらこれ以上の風車を止められるかと相談がありました。

くまもり稚内風車 勉強会

10月13日、鈴木ひかる北海道支部長は稚内市内の図書館で風車学習会を持ちました。十数名の方々が集まってくさいました。以下、鈴木支部長からの報告です。

稚内に来ると、山の尾根筋にずらりと風車。ものすごくかたです。稼働している風車の騒音を録音しましたが、そばにいと気分が悪くなりました。人間よりずっと敏感な野生動物たちは、騒音、低周波音、振動等に耐えられないのではないのでしょうか。

稚内で酪農を営み風車に反対している西さんにインタビューしてみました。

体調が悪くなる ヒグマが出て来た 携帯が使えなくなった



身体的にもつらいんですよ。風車つよね。最初は慣れた。最初は慣

れんかったからね。具合悪くて。胸悪くなってきた。な

んか知らんけど、精神的に参る。心臓とかによくないって研究結果が出てると聞いた。日本政府は未だに風車病との因果関係を認めてないけどね。

山の峰に道路を造ると風で道路の両側の木が皆枯れる。山ブドウやコクワもなくなる。うちは代々百五十年もここで暮らしてきたけど、風車が建つまでは、クマが道路を横切るのはたまに見たけど、今みたいに里に住み着いちゃうってことはなかった。餌を求めてこんな人里まで出て来て、穴掘ったりなんだりして食べ物を探しているんだ。業者は風車とクマ出没の因果関係はわからないと言う。僕は風車だと思ってんの。去年の社員は認めていて、また来年もクマ出たら、箱罌を置きますって。でも、もうどっかへ飛ばされた。

名古屋の弟が死んだって連絡が携帯に入ったんだ。でも、ブツブツ切れるから、何言ってるのかわからない。風車で携帯電話が使えなくなった。みんなは自分でケーブル引いたりして対策している。

なぜ他の人は反対の声を上

げないのかって、風車の自然や森林破壊、健康被害、鳥獣への悪影響など、マスコミが報道しないからね。

札幌街宣で道都市民に 訴える

11月9日、札幌大通り公園で会員6名が北海道支部初のくまもり街宣を行いました。

「石狩の洋上風力発電から出る低周波音が、北札幌市民の体に影響を与えるというシュミレーションが出ています。ご存知ですか？」若い人たちが驚いたように振り向いてくれました。

みんなまだ風車のデメリットを知らないのです。北海道の自然を守るため、来年も稚内でも勉強会や集会を持つていく予定です。再エネするなら都市で！東京の皆さんも、北海道の再エネ問題を共に考えてほしいです。



街宣中の鈴木支部長

禁止 転載 断 無

再エネ問題連絡会 事務局報告

自然を壊しての再エネ開発を止めるために2021年に熊森も参加して結成された連絡会には全国より69団体が参加されています。普段、連絡会会員たちはそれぞれ地元で、独自に活動されています。事務局は、参加団体や新規の方の相談や質問に日々対応しています。

連絡会登録者間での意見交流や、識者によるミニ講演のため、月1回オンラインミーティングを開催しています。

以下は、事務局が中心になって動いた今年の主な活動報告です。

2月19日 長崎県・佐世保市に宇久島メガソーラに関する公開質問状を提出
25日 宇久島現地調査
27日 長崎県庁にて記者会見

長崎県宇久島（佐世保市）でのメガソーラー建設事業計画（事業面積約720ha）の開発許可に関しては、事業面積が島の約4分の1を占める規模の大きさにも関わらず、環境アセスメントの対象となっていない等、問題点が指摘されてきました。

当連絡会では、環境面のみならず防災の観点からも同事業計画に問題があるとして、長崎県と佐世保市に質問状を提出するとともに、

専門家による現地調査も実施しました。

5月11日、12日能登半島現地調査

2024年1月1日に発生した能登半島地震(M7.6最大震度7)は、能登地方に甚大な被害をもたらしました。震災発生前、能登半島では73基の風力発電所が稼働していましたが、地震の直後には施設を動かすための外部電源がないため全基停止、4カ月後の現地調査の時点でも7基しか稼働再開していません、とのことでした。従来より、風車やメガソーラーなどの耐震性について疑問視する声もありましたが、実際にはどのような被害状況なのか、情報もほとんどないことから、現地調査を行いました。

10月15日～25日 衆議院選挙候補者アンケート→HPに公開

第50回衆議院選挙（10月15日公示、10月27日投票）の立候補者に再エネ問題に対する考えを聞くため、北海道・東北6県他アンケートを送付、回答をHPに公開しました。

★吾妻山の美しい景観を失うことは福島市民のアイデンティティを損なう！吾妻山メガソーラー反対署名にご協力ください。署名用紙同封しています。1月末まで。

再エネ問題

延岡市の森林部門・再エネ部門で委員として奮闘

宮崎県支部 チームくまもり 支部長 鶴永貴史

森林環境譲与税で人工林の天然林化を



宮崎県には、「伐って、使って、すぐ植える」という人工林の再造林を推奨するスローガンがあります。これだと持続可能な林業になりません。森林環境譲与税の使い方も伐採や再造林の促進に傾いてしまっています。

森林環境譲与税は環境保全のために使ってほしいという思いが強かった私は、延岡市の検討会の一般市民の部での委員に応募して委員となり、検討会では山主の部で委員に選ばれた熊森会員の松原学さんと二人でたくさん意見を言いました。

延岡市の行政や他の委員の方々と私たちは意見が食い違う部分が多く、常にアウエイ感がありました。検討会に2名の熊森会員が入ったことは、大きかったです。

私たちは、森林の公益的機能の發揮の項目に、『奥地の山林で作業道の整備が困難などの理由により、経済林としての機能を發揮できない森林についても、保水力や治水力など公益的機能の維持を図る観点から適切な間伐などの管理に努め、「適地適木」の考え方により、針広混交林や天然林への誘導を図る』の太字部分の文言を書き足すように強く求め、絶対に譲らない姿勢を貫き、なんとかこの文言を入れることができました。森林環境譲与税を人工林の

天然林化に活用するよう引き続き求めていくつもりです。

再エネ規制条例を求め奮闘中

延岡市では現時点で山林での大規模な再エネ開発はありません。しかし、支部長研修会などに参加して、再エネの乱開発は他人事ではないと感じ、出前市長室に室谷会長もお呼びして講演していただいた後、会員50名と共に、その場で読谷山市長に、延岡市にも再エネ規制条例を作ってくださいとお願いをしました。

その後、延岡市は「延岡市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、再エネを積極的に取り入れることになりショックを受けました。私は、この方面でも検討会の委員になりました。委員には、全国の再エネ問題に精通しておられる幸田雅治弁護士もおられます。

委員会は全6回で、現在、3回目が終わったところです。今のところ、山林での再エネ開発は絶対に認められないという私と幸田先生、山林を利用しないと目標出力に達しないという市側の主張のせめぎ合いです。市には、地方行政は基本的に国や県の方針に従ってほしいという体質があります。延岡の子どものためにも、ここがふんばりどころ。そう自分言いかせながら頑張っています。

禁止転載断無

危機感でいっぱいの本部が初の東北遠征

再エネ事業による森林破壊を止めねば日本が破滅する

福島県 JR 郡山駅前で、森山名誉会長が初の街宣



人は森に生かされている



10月11日夜 郡山市



10月12日朝 福島市



10月12日夜 山形市



10月13日朝 米沢市



10月13日夜 盛岡市



10月14日朝 花巻市

再エネ発電では、私たちの再エネ賦課金が、主に事業に投資した海外の投資家に流

れます。しかも、事業は再エネ特措法で大儲けが保障されている20年間で一応終了し、その後一部延長する業者がいたとしても、事業が終われば、後に残るのは破壊された国土と災害、大量の処理不可能な廃棄物です。

東北全県に熊森の支部が必要

福島と岩手で支部結成に向けた動きが進んでいます。

再生可能エネルギー事業者に狙い撃ちにされています。

再エネ電気は自然のみでは成り立たず、設備は工業製品の塊です。設備製造時はもちろん、絶えず変化する再エネ発電量を安定して使える電気にするために、発電時も常時バックアップ電源として、横

酸化する発生させると言われています(参考文獻・近藤邦明著『電力化亡国論』不知火書房)。

再エネ事業から東北の自然を守るためには、現在支部がない福島県・山形県・岩手県にも熊森支部が必要です。

太陽光発電や風力発電は、電気を得るために火力発電の何千倍、何万倍もの敷地が必要です。我が国の食糧庫であり、まだ豊かな森が残されている北海道や東北が、これら

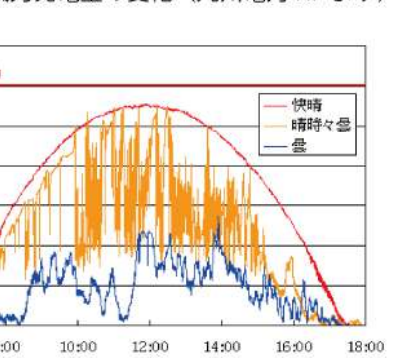
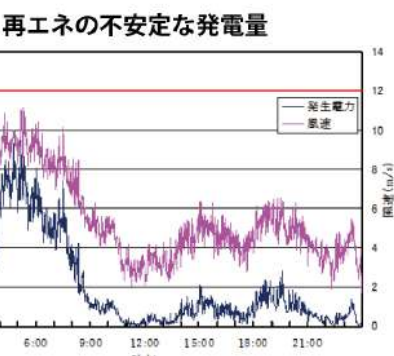
再エネプロパガンダ

24時間の風力発電量の変化(九州電力HPより)

日中の太陽光発電量の変化(九州電力HPより)

東北で大規模に森林を破壊する再エネ事業計画が目白押し

こんな仕組みを日本の政治家たちが考えたなど信じられません。



第13回 日本奥山学会研究発表会開催

日本奥山学会は、奥山の保全・再生に関する研究を行うとともに、若手研究者を発掘し育てることを目的に設立された学会です。

7月7日、神戸大学で第13回研究発表会が開催され、76名の方が参加してくださいました。



岩手大学名誉教授 青井俊樹氏

1950年生れ。北海道大学大学院農学研究所博士課程中退。天塩・和歌山・苫小牧の北海道大学演習林勤務後、岩手大学へ。初代（JBN）日本クマネットワーク代表（講演要旨）クマの推定生息数は大きな幅があるため、何頭いるから何頭まで減らせというのはいかにして捕殺数を減らすか

である。

①2023年度の東北・北海道でのクマの大量出没、②クマの生態、③地元集落・行政・岩手大学の学生で取り組んでいるクマを寄せ付けない集落作りの順でお話しされ、最後にクマが非常に苦手で怖がる動物を教えてくださいました。

素晴らしい内容で、参加者一同、聞き入りました。次号の日本奥山学会誌に掲載予定です。

若手の研究発表

千葉大学大学院 石井和氏



「高山生態系で重要な役割を担うアブラムシの個体群動態を駆動する要因の検証」

慶応大学4年生 和田匠平氏



「砂浜から海岸林のきのこく失われゆく豊かな砂浜環境」



日本奥山学会HP

「社会貢献支援者表彰」を受賞

日本熊森協会は、この度（公財）社会貢献支援財団（会長 安倍昭恵氏）の「社会貢献支援者表彰」の第61回受賞団体に選ばれました。

様々な社会問題に取り組み受賞団体の中には、地元の市民や宮城県支部とともに奥羽山脈に計画されている巨大風車が渡り鳥に与える影響を調査している「日本雁を保護する会」もあり、代表の呉地正行先生と共に受賞を喜びました。

受賞にあたり、社会貢献財団が熊森の紹介動画を作ってくださいました。表彰された30団体の中で、動画をつくっていたのは3団体だけです。財団の皆さんが、私たちの活動の意義を高く評価してくださいました。熊森の活動や意義がダイジェストにまとめられた動画ですのでぜひご覧ください。

後日、社会貢献財団の理事会にお招きいただき、水源の森を守る熊森の活動について説明をさせていただきました。財団の理事のみなさんは、本当に大事

な活動とわかったのもっと応援をしたいと思います。

これまで活動を支えてくださった会員のみなさまにご報告させていただきます。今回の受賞はみなさまのおかげであることを思い、心から感謝申し上げます。活動支援金として100万円をいただきました。



室谷 悠子

一般財団法人 日本熊森協会：第61回社会貢献支援者表彰 受賞者紹介



紹介動画用QRコード

東京で一緒に動ける仲間を増やしたい

東京都支部長 西岡初見



2024年の夏から東京都支部長に就任しました西岡初見と申します。

熊森協会に入会したのは、クマの大量出没年となった2015年（平成27年）でございます。テレビでは、連日クマが里に出て来て駆除されるニュースが流れ続けていました。胸が苦しくなる映像も映し出され、なんとかクマを助けられないか、どうすればよいのか、いてもたってもいられない思いを抱いていたある日、テレビ画面で、なぜクマが山から出て来るようになったのか、熱く語っておられる森山まり子会長（現名誉会長）を見つけ、すぐさまネット上で検索して入会。東京都支部の例会に参加しました。

当時と現在を比べると、クマを取り巻く環境は、熊森協会の必死の努力にもかかわらず、改善どころか、ますます悪くなっていると思います。東京は奥にまだクマの棲む

森が残っている世界でも稀有の首都ですが、奥多摩の山々は、今のところ風車こそないものの、戦後の拡大造林政策によって、人工林率が60%にもなっております。クマの本来の生息地である標高の高い部分までもがスギやヒノキで覆いつくされておられ、とてもクマが未来永劫持続して生息し続けられるような環境ではありません。

そして今、人工林の皆伐跡地には、またしてもスギの苗木を植える再造林。何とか、クマの餌場となるような広葉樹林に戻していただきたい。首都東京の森林政策が変われば、全国に波及するはず。奥多摩の山を栗の白い花で埋めるには、会って、話して、手を取り合って一緒に汗を流す仲間が、もっとも必要です。また、省庁や国会を訪れて、官僚や政治家と話し合う人材も、もっと必要です。

東京都会員のみならず、まずは、毎月の定例会にいらして下さいまし。小田急線祖師ヶ谷大蔵駅徒歩3分、世田谷の立地抜群のきれいな熊森東京事務所（2階）でお待ちしております。

支部活動

二つの集い

宮城県支部長 小松淳

11月23日、宮城県加美町の中新田公民館で、二つの集いを開催しました。

第一部 会員の集い

参加者15名、オンラインで室谷会長も参加。最初に自己紹介と、熊森協会に入会した動機を全員に話してもらいました。「実践」という言葉が入った自然保護団体だから」という方が2名おられました。懇談時間は、会員が会長に直接質問できる貴重な時間となりました。

最後は、佐藤副支部長のギター、地元住民の諸岡さんのバイオリン演奏、会員の浦山さんが歌う「まえまじゅた」（浦山会員作詞・作曲）を披露していただきました。

第二部 渡り鳥ウエルカムイベント

in加美

「加美郡を渡るガン、ハクチョウを未来に残す会」の皆様と共催。参加者はスタッフも含め36名。司会は高森副支部長。

私からは、「加美郡の自然環境は世界的に見ても貴重。この宮城でシジュウカラガンが絶滅の危機から回復しようとしており、ネイチャーポジティブの実現は不可能ではないことを世界に証明している」とご挨拶させていただきました。

熊森本部制作の渡り鳥に関する動画の上映、「シジュウカラガン」に関する紙芝居を地元住民の門真さんが上演、「加美郡を渡るガン、ハクチョウを未来に残す会」のメンバーでもある野泉さんの報告、「渡り鳥クイズ」など、楽しい雰囲気になれながら、イベントが終了しました。

支部設立5周年感謝祭を開催!

愛知県支部長 山下賢悟

10月5日、名古屋国際センターで愛知県支部設立5周年感謝祭を開催。参加者38名、本部から森菜々事務局長もご参加くださいました。

愛知県支部は、支部を設立してこれから活動していくぞ!という時にコロナ禍に見舞われ、集まることを否定される期間が3年近く続きました。

顔を合わせて意見交換することを大切にしている愛知県支部は、毎月定例会を実施。今年は室谷会長の講演会も開催しました。

コロナ禍が収まってからは、小学校での環境学習、毎年夏の恒例になった自然観察会、講演会、マルシエなどのイベント出店、林業研修などを定期的に開催しています。

今回の感謝祭では、会員のみならずがそれぞれ思いを語り、交流を楽しんでくださったと思います。

改めて感じたのは、会員の皆さんはどの方も素敵な人たちがばかりということです。熊森の会員の皆さんは、誰かに言われたのではなく、自分のためでもなく、森や生き物たち、自然のこと、未来のことを思っただけで行動する方たちで、お一人お一人が宝のような存在だと実感しました。



皆で力を合わせて、少しでも多くの自然を守っていきけるようにがんばりたいです。

米イエローストーン国立公園現地ガイド ステイブ氏の講演会

秋田県支部長 井阪智

11月27日と28日の両日、ステイブ・ブラウン氏をゲストに秋田県支部主催の講演会を開催しました。ステイブさんは奥様が日本人ということで、日本語を話されます。

私が最初に、秋田は去年、生息推定数の52%のクマを駆除したと話したら、ステイブさんが「考えられない！」と絶句されました。アメリカでの捕獲上限は生息推定数の4%だそうです。

イエローストーンにはクマも多く、クマより遙かに危険と言われるバイソンも市民の身近にいるようですが、人身事故はほとんど起きていないのとことです。

かつて、アメリカは4000万頭もいたバイソンを殺し続け、わずか29頭までに減らした歴史があります。ここから国民の声によって方向転換。現在のイエローストーンの自然環境は、ヨーロッパ人が入ってくる前の豊かな状態に戻ってきているそうです。

クマによってもたらされる多くの恩恵があり、狼とクマがいるおかげで、シカによる下層植生の過剰な食害が防げます。その結果、山や川沿いに豊かな植生が残り、洪水による被害を防いでいる実例も写真で示されました。

ステイブさんから「秋田県ではクマインフラはきちんと整備されていますか？」という問いかけがありました。

「クマインフラ」とは、情報とクマ除けスプレーのことです。

アメリカの空港を降りると「ようこそクマの国へ」という看板がまず目につきます。次に、入国者に対してクマ除けスプレー等の具体的な準備を促す大きな看板が設置されています。スプレーは空港でもホームセンターでも山積みになっていて、貸し出しもしています。「秋田県はどうですか、駅も空港も見て回ったが、何も無いよ」と言われました。

秋田市のおよそ3倍の人口密度というミズーリ州は、「クマと共に生きていくこと」を選択し、市街地でも、クマが開けられないゴミ箱を使うべき場所を指定する法律をつくるなど、クマ対策が徹底されており、ほとんどクマの事故は起きていないそうです。アメリカは広大だから共存できるのではなく、共存を選択し、努力しているのですと話されています。

アメリカのかつての方向転換を踏まえ、秋田県で去年起きたことをどう理解し、秋田県はこれからどこへ向かわべきなのか。熊森秋田が語り広げていけたらと思っています。



樹木図鑑作家 林将之顧問講演

東京都副支部長 川崎浩

おすすめの樹木図鑑があります。「葉で見わかる樹木」(小学館2004年)です。



(本部から) 以前の植物図鑑の中の植物は、絵か写真でした。これだと、実物を同定するのに不安があります。林先生は、実物の葉っぱをコピー機で直接スキャンしたらどうなるかやってみて、まるで実物を張り付けたような図鑑を作られました。その結果、図鑑がこんなに売れるのかというほど、図鑑の売り上げナンバーワンを記録されました。

また葉を見るだけですぐに木の名前が分かるよう、葉を見事に分類されています。樹木に詳しくない人にもとても使いやすい図鑑で、熊森本部フィールド部必携の図鑑です。

林先生は古くからの熊森会員で、現在熊森顧問です。11月10日(日)、東京下北沢で室谷会長と林先生の講演会を開催しました。定員60名の会場がほぼ満席となり盛況でした。

室谷会長の「首都・東京にクマがいる意義」という講演の後、林先生に「樹木図鑑作家が見た森と生きものたち」

という演題で講演していただきました。

クマとの遭遇の体験から始まり、ツキノワグマは日本の森での最大級の動物であり、森の攪乱や種子散布の役割を果たし、生物多様性を高めている、なくてはならない動物であることなどを話された後、今、シカの増え過ぎで荒れている日本の森の再生策を3つ提示されました。

- ① 里山を活用して食料や木材、エネルギーを自給する。
 - ② 環境を第一に考える。
 - ③ 絶滅させてしまったオオカミの再導入や、野生動物の里への侵入を防ぐ役割を担っていた犬の復活など、本来の生態系との共存を取り戻す。
- 故郷の山口県田布施町でセンダンの巨木を守るために先生が奮闘されたお話に感動しました。
- 参加者から、広葉樹の森を守ることがクマを守ることにつながるといったことが良くわかりましたというご感想をいただきました。



岡居彰浩氏に学ぶ クマとの共存

広島県副支部長

大元節子

光野郁江



9月8日、約20名が集まり、兵庫県豊岡市の鳥獣対策員の岡居彰浩さんによる勉強会を持ちました。クマの出没が度々問題となっている広島県でも、クマと共存できるようにしたいとの思いからです。

岡居さんは狩猟免許を持っておられますが、大人数で行う一般的な狩猟ではなく、一人でする猟を選ばれました。そのうち、他の猟師さんとは違う考えを持つようになっていったそうです。そして今、行政として鳥獣対策の仕事に携わる中で、「殺すだけではダメ。まず防除。棲み分け」という考えに至ったそうです。

クマと共存するには、クマのことを人間が知る必要があると言われます。森におけるクマの役割や行動、殺処分

が避けられないケース、また、熊森協会本部と連携して、実際に豊岡市でやっているクマが集落に出て来ないようにする取り組みのお話、小学校のプールを泳ぐ子グマとそれを見ている母グマの話等々、時に真剣さを伴い、時に楽しい内容の岡居さんの話に、みな引き込まれていきました。

フィールドワークも実施してくださいました。岡居さんが突然「クマの匂いがする」と言われた直後、参加していた小学1年の男の子が、昨日のものと思われるクマの足跡を発見。一同驚きました。

岡居さんのお話には、捕殺に頼らなくても、棲み分けることによって人とクマが共存できるヒントがたくさんあり、行政の方にもぜひ知っておいていただきたい内容でした。岡居さんの穏やかでソフトな語り口やお人柄に皆ひかれ、子ども大人もとても楽しそうでした。

以下、参加者からの感想です。

ものすごく愛のある視点で野生動物や森を見ておられ、感銘を受けました。厳しい状況の中で決断を迫られる経験を何度も繰り返しながら、多くを乗り越えてこられた方なんだなあと感じ取れる内容でした。

行政担当者や議員さんたちにも参加していただける形にして、2025年5月17日(土)に、再度岡居さんの勉強会を広島で開催することにしました。皆様で予定ください。

各地でお話会

山口県会員が150人増加

山口県支部長 松田利恵

夫の実家がある山口に移って間もないころで、山口県内にはまだそれほど知り合いがいりませんでした。2人の方が私のお話し会をセットしてくださいになりました。私は森山名誉会長の講演録音を何度も何度も繰り返し聞きながら聴いて、心身に染み込ませ、初回のお話し会を迎えたのです。昨年8月30日のことでした。

昼の部・夜の部で合計45人ほどが参加してくださったのですが、何とこの日、35人の方が熊森に入会してくださいました。お話し会後の持ち寄り食事は大いに盛り上がり、山口県支部の活動をもっと活性化させようという話になりました。

私は山口の山を守ろうと思う意識の高い県民を県内各地に誕生させていかねばならないと思いい、この後も各地でお話し会を続けていきました。人に伝えるために大切にしていることは、真実を腑に落として伝えることと、熊森なら希望が叶えられる！と、明るい気持ちになれるような雰囲気作りです。

お話し会は、会場費を抑えるために、地元の方が手配する無料が格安の公共施設・会員宅・お寺などで行っています。参加費無料、カンパの呼びかけだけで、ありがたいことに今

のところ交通費など必要経費は賄えています。

お話し会の後には、自由参加で持ち寄りご飯会をすることが多く、「同じ釜の飯を食う」ことで楽しく腹を割って話せるようになります。

みなさんに協力いただき、1年3ヶ月で広島・福岡・島根も含めたら、40回ほどお話し会を開催してきました。山口県支部会員も、約150人増えました。風力発電計画から自然を守ろうと、地元住民が主体的に動くようになってくれたり、熊森に協力する人が増えたりで、私が語って歩くことで人との繋がりが増えていくことに感謝する日々です。

森山名誉会長は、仏教もキリスト教も、語る人がどんどん増えて、やがて世界宗教になっていった。再エネによる国土破壊に歯止めがからなくなっている危機的な状況の今、全国各地に熊森を語る人が誕生してほしいと言われています。みなさんががんばりましょう。



私と原生林

顧問 宮澤正義



2023年7月 埼玉県で講演後撮影 96才時

くまもり顧問のリレーエッセー

くまもりの活動へのご支援やアドバイスをいただいている多彩な顧問の方々に、「私と生きもの」または「私と自然」をテーマに書いていただいています。

原生林との出会い

私は、昭和2年、長野盆地の農家に生まれました。幼少の頃は田畑や里山が私の遊び場でした。当時の里山は、昆虫をはじめ様々な生き物たちであふれかえっており、足の踏み場もないほどノウサギの糞が散乱していたのを覚えています。

7歳の夏、三国山脈の熊の湯温泉に子熊が飼われていると聞いて、会いたくて父に送ってもらい出かけて行きました。

この時初めて原生林に出会いました。標高1200mの丸池を超えると、景観が全く変わり、ブナの原生林帯と身を刺すような冷気。熊の湯温泉はその先の、神が住んでいるとしか言いようのないシラビソ帯の中に取りました。

これをきっかけに、私は当時まだ残されていた信州の原生林の巨木の森や草原、湿原などを、生き物たちとの出会いを求めて訪ね歩くようになったのです。

私の人生観を変えた原生林と地球史

当時の里山は、10年ごとに伐採して薪などにされていたので、細い木しか生えておらず明るい疎林でした。道が縦横に造られており、どこにでも好きなのところに簡単に行けました。

里山を上に向かって登って行くと、鬱蒼とした原生林にぶつかります。林床にはササが密生しており、ここから先は全く道がありません。入山は不可能。当時

は登山をする人などおらず、この奥に入るのには余程の道案内者だけです。

私はけもの道を探してやつとこのことで原生林に入り、時には野営して人間の頭をはるかに超えた超複雑な自然生態系のしくみを、学問書だけではなく現場でも学んでいったのです。

台風到来中の原生林にも入りました。恐ろしい暴風雨が去った後は、枯れ枝などが落とされて、森は風呂上がりのおじいさんの頭のようにさっぱりしており、1本の木も倒れていませんでした。

原生林を抜けると高山植物しかない明るい森林限界に出ます。ここから下界を見下ろすと、通り抜けてきた原生林やその下の里山、集落や川まで見おろせます。

上を見ると岩石だけの山頂。長い年月をかけて岩石が風化し、砂になり、様々な生物の営みを通して土ができて、森林が形成される。一方に向かって進化してきた数十億年の地球史が一目で見えて取れ、大歓喜。何人もこの地球が進む方向に逆らうことはできないと悟りました。

当時の志賀高原には、3000頭のクマがいると言われていましたが、今のように山から出てくることなど全くなく、長野と群馬両県で年間計20〜30頭が猟師に狩られている程度でした。人間が管理などしなくても、本来、自然界の生物数は増え過ぎもせず減り過ぎもせず、バランスが取れるのだと思います。

自ら絶滅に向かって歩んでいる現代人

戦後、国が1500兆円かけた国土総合開発や観光開発によって破壊された自然はすさまじく、かつてクマたちがいた奥山には、今、観光客があふれています。拡大造林政策で造った膨大な人工林内に、動物たちの食べ物はありません。

現在の人類は生物界でひとり勝ちし、無敵の地位を得た結果、地球の森羅万象はことごとく自分のものだと勘違いし、敗者の痛みに鈍感になり、気に入らない生物を排除するようになりました。何十億年もの長い進化の果てに現世にたどり着いた仲間たちを絶滅に追いやり、自らもまた絶滅に向かう。裸の王様です。

人類が生き残るには、豊かな原生林を残していた祖先、森の生態系の頂点に立ちながらも棲み分け食い分けを守って全生物と共存してきたクマ。かれらから学ぶ必要があります。

今は、熊森の発展を願うばかりです。

日本に於けるツキノワグマ研究の第一人者。1927年長野市生まれ。生物環境学をおこす。著書「クマは警界する」「家族になった10頭のクマ」「人類の生き残りをかけた提言」など。自宅の500坪のリンゴ園で10頭のクマたちと20年間家族として暮らし、あらゆる面からクマを研究。1992年の尼崎市の中学生たちのクマ絶滅阻止運動以来、32年間、一貫してこの運動を支持。

顧問連載

くまと過ごす日々

母グマを撃たれ、みなしごとなり、現在は和歌山の生石高原で山田順二さんのもとで飼育されている「太郎」と「くまこ」。大阪でイノシシ用の箱罠に錯誤捕獲され、殺処分寸前のところをくまもりとお寺に救出され、豊能町の高代寺で保護飼育されている「とよ」。くまもりは、ボランティアのみなさんにご協力いただき、保護飼育のお手伝いをさせていただいています。穏やかでとても知的な本来のクマの姿や、まだわからないことも多いクマの生態を知ることができています。彼らは、「クマは人とすみ分け共存できる」ことを伝えてくれています。みなさんも、ぜひ、会いに来てやってください！

太郎と花子のファンクラブ基金は太郎とくまこ。
くま保護基金はとよのえさ代やクマ保護活動などに使われます。
ご協力をお願いいたします。

【太郎・くまこ限定】ゆうちょ銀行 振替口座 00920-7-80487
099店 口座名「太郎と花子のファンクラブ」

【とよ&くま保護基金】ゆうちょ銀行 振替口座 00980-7-203246
099店 口座名「くま保護基金」

ほごくまたち

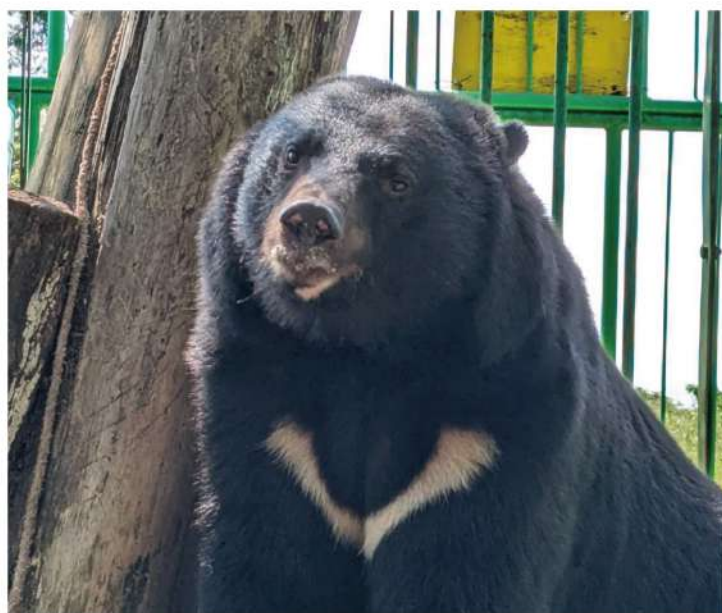
くまこ 4才 石川県生まれ メス 【冬ごもり期間12月～2月中旬の間】



12月8日に初めて雪が積もった生石高原。冬ごもりに備えてくまこもしっかりと太り、貫禄が出てきました。冬眠モードに入っているのか、動きがゆっくりとしていて、フンも少なく余り食べていないようです。くまこの冬ごもりは短く、1ヶ月程度です。クマたちが起きている間にぜひ会いに行ってお越しください。

お世話日は太郎と同じ日

おてんば「くまこ」も冬支度



とよ 14才 大阪府 豊能町高代寺 京都府生まれ オス

たっぷり太って冬ごもりの準備完了！



寒くてもプールが大好き 11月15日

【冬ごもり期間 12月中旬～3月上旬】

今年は気候が不安定で、急に冷えたと思った次の日には暖かくなったりする気温にとよも困っている様子。

皆様からいただいたドングリのおかげで、とよは今年もしっかり脂肪をつけることが出来ました。とよがプールの段差をまたごうとすると、お腹が段差にあたるほどです。眠そうな日も増えました。いつ冬ごもりに入るかお世話の人たちと見守っています。

錯誤捕獲グマの保護飼育
大阪府豊能町高代寺
本部お世話日は、
毎月第1、2、4 火曜日と
第3日曜日です。

くまの森と人

太郎 34才

和歌山県生まれ オス

さびしい冬も飼い主と乗り越える

今年は暑さが長引き、涼しい寝室にいることが多かった太郎。

冬眠しない太郎は他の2頭と違い、まだまだ食欲旺盛。しかし、寒いのかエサを部屋に持ち込んで食べているようです。飼い主の山田さんが冬の間も餌をあげてくれますが、太郎は隣室で走り回っているくまこが冬ごもりに入ると、さびしくなる？！



【冬ごもりせず】

みなしごグマの保護飼育 和歌山県有田川町
お世話日は、和歌山県支部（第1・3日曜）、
本部お世話日は（第2・4日曜）

太郎と花子のファンクラブ
2023年度総額 376,000円ご寄付者の皆様
（敬称略）ありがとうございました！

小倉美香 ジュンセイ株式会社 中山亮 中村和子
松尾敏之 谷口安子 三品亜子 中村明代

無断転載禁止

1千万円の高額クラウドファンディングに挑戦!

(10月20日〜12月20日まで)

日本のクマ大量殺処分を歯止めを！クマの命も人の安全も守る共存対策を広めたい！！

kumamori_user ソーシャルグッド



現在の支援総額
7,613,500円

76%
目標金額は10,000,000円

支援者数
416人

24時間以内に44人からの支援がありました

募集終了まで残り
6日

熊森は、永遠にどこからの圧力も受けない会であり続けるため、会員の会費と寄付だけで運営している完全民間団体です。近年、活動範囲がどんどん広がっており、毎年赤字にならないかヒヤヒヤの連続でした。今年度分の収支だけでいうと、大きな赤字になることが早期に見込まれたため、秋のクマが出没しやすい大事な時に必要な活動ができるように、民間のクラウドファンディングサイトを利用して、総額1000万円の高額の寄付を呼びかけさせていただきました。この会報が届くころには終了しています。おかげさまで今年度も何とか乗り切れそうです。多くのみなさまにご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

今後、活動を支えてくださる会員数をもっと増やすこと、広く会員外からも寄付をいただき、より安定的な運営ができるよう創意工夫して参ります。

お知らせ



かつてクマ撃ち隊の隊長だった佐藤八重治さんは、みなしごになった子グマを家に連れて帰り、わが子のように大切に育てられました。クマがどんなにすばらしい動物かわかると、もうクマを撃てなくなり、銃を返されました。その後は各地で、クマのすばらしさや保護の大切さを語って歩かれました。

あまりにもかわいいクロちゃんの写真を見て、熊森は設立当初から佐藤さんにお願ひし、熊森マスコットグマとしてクロちゃんの写真を自由に使用してもらう許可を得ました。

クロちゃん、長い間ありがとうございます。



「クロちゃん」のお墓が完成!

山形県鶴岡市佐藤八重治

昨年7月1日にクロちゃん(メス)が32歳でなくなりました。新聞でも報道されました。埋葬場所に板塔婆を立てただけのお墓に、県内外各地から多くの方がお墓参りに来られました。

今年4月上旬、私と妻は、秋の彼岸までにクロちゃんのお墓を建ててやろうと計画しました。石屋さんに相談すると、「初盆までに作ってやりなさいよ」と言われ、計画は急加速。

8月10日朝5時、朝焼の美しい空の下で建立完成供養を執り行いました。友人たちも参列してくれ、地元紙にはトップ記事として取り上げられました。

クロちゃんファンの多くは日本熊森協会の会員さんです。長い間お付き合いくださった多かった多くの方々に、紙面をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

クロちゃんのことを発信し続けてくださった熊森協会に改めて感謝するとともに、熊森協会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

無断転載禁止

■日本熊森協会 法人会員（都道府県別）

2024年12月12日現在

企業会員

マルソー(株)	新潟県	(有)コスモス	神奈川県	ムソー(株)	大阪府
(医)小川医院	茨城県	神谷コーポレーション(株)	神奈川県	(株)ホワイトマックス	大阪府
星野管工(株)	群馬県	オーセンテック(株)	神奈川県	(有)アイ・イー・シー	大阪府
(有)長谷川電機商会	埼玉県	上昇運輸(株)	石川県	(弁)東大阪総合法律事務所	大阪府
(株)日本ウォーターテックス	埼玉県	(株)アライアンス	石川県	(株)イワノ	大阪府
(株)セレモ	千葉県	(株)アイシステム	石川県	(株)シーエスハラダ	大阪府
(株)祐真	東京都	飛騨産業(株)	岐阜県	(弁)あすなる	大阪府
(株)学夢堂	東京都	(株)伴電気商会	岐阜県	(株)尼崎工作所	大阪府
アカデミア動物病院	東京都	(株)プレマ	愛知県	ダイワ運輸(株)	兵庫県
(株)Major 7th	東京都	(株)メイコウ	滋賀県	(株)Lightning&Star	兵庫県
(株)ベアーズ	東京都	(有)アルペリフィールド 紀伊國屋	滋賀県	(株)ネイチャー生活倶楽部	熊本県
オラガネット(株)	東京都	(株)トータルヘルスデザイン	京都府	(医)杏子會	宮崎県
(株)シェア・ジャパン	東京都	朝日商工(株)	大阪府	(株)吉玉自動車工場	宮崎県
(株)アウレオ	東京都	豫洲短板産業(株)	大阪府		

団体会員

(有)仁井田本家めぐり	福島県	(株)わらべ村	岐阜県	和田山ロータリークラブ	兵庫県
(株)小松設計	千葉県	(有)島田家具工芸	滋賀県	ドッグハウスK9	兵庫県
(株)シーエスコーポレーション	東京都	(株)アタシオン	京都府	東城ロータリークラブ	広島県
(株)シェア・ワールド	東京都	木下音楽教室	大阪府	吉舎ロータリークラブ	広島県
(一社)シェア基金	東京都	西宮恵美寿ロータリークラブ	兵庫県	(宗)龍国寺	福岡県
(医)飯沼病院	東京都	(株)ヒューマレッジ	兵庫県	(株)リンク・マーケティング	福岡県
(株)オリエントナノ	神奈川県	第一電子(株)親睦会	兵庫県	公文東与賀教室	佐賀県
ももちゃんの森の探検隊		西宮甲山ライオンズクラブ	兵庫県	(株)宮崎中央新聞社	宮崎県
ぺこちゃんも	神奈川県	NPO会計支援センター	兵庫県	(有)角田	鹿児島県
(株)クリーンK	岐阜県	(株)GEOソリューションズ	兵庫県		
(株)杜の研究所	岐阜県	尼崎プロバスクラブ琴寿会	兵庫県		

■日本熊森協会 顧問（就任順）

2024年12月12日現在

宮澤正義	生物環境学・野生動物研究家【名誉顧問】 (ツキノワグマ研究第一人者)	石 弘之	元東京大学大学院教授 元駐ザンビア特命全権大使
主原憲司	昆虫研究者(森林生態学研究)	船瀬俊介	消費者運動ジャーナリスト
赤木文生	国際ロータリー第2680地区パストガバナー 元日本弁護士会 副会長	今本博健	水工技術研究所代表 京都大学名誉教授 工学博士
赤松正雄	元衆議院議員(元厚生労働副大臣)	平野虎丸	森林・林業アドバイザー 一般社団法人エコシステム協会理事
中野和子	公認会計士 税理士	林 将之	樹木図鑑作家
マルコム・フィッツアール	カピラノ大学名誉教授	馬淵睦夫	元ウクライナ大使 元防衛大学校教授
門崎允昭	北海道野生動物研究所 所長 農学博士 (ヒグマ研究第一人者)	藤田 恵	徳島県旧木頭村 元村長
大前繁雄	元衆議院議員(元防衛大臣政務官)	嘉田由紀子	参議院議員 滋賀県選出 前滋賀県知事
安積遊歩	ピアカウンセラー	安藤 誠	プロネイチャーガイド 野生動物写真家
安田喜憲	国際日本文化研究センター名誉教授 理学博士 ふじのくに地球環境史ミュージアム館長	片山大介	参議院議員 兵庫県選出
西川節行	元広島大学教授 関西経済連合会	池田直樹	弁護士(大阪弁護士会) 日本環境法律家連盟理事長
橋本淳司	アクアスフィア代表 水ジャーナリスト	務台俊介	元衆議院議員 長野県選出
船越康弘	民宿「百姓屋敷わら」経営	土屋品子	衆議院議員 埼玉県選出
		和田有一朗	衆議院議員 兵庫県選出
		飯田哲也	認定NPO 法人環境エネルギー政策研究所 所長
		鈴木猛康	防災推進機構理事長 山梨大学名誉教授

無断転載禁止

日本にも本当に自然を守ることができる大きな自然保護団体を作ろう！

日本には真に自然や野生動物を守ることができる法律がありません。
法律をつくるためには、たくさんの会員に支援された大きな自然保護団体が必要です。
ぜひ、会員の輪を広げていくことにご協力ください。

入会案内

入会手続き・ご寄付・年会費の納入が、
郵便局・銀行に行かなくてもお手軽にできます。

クレジットカードでのご寄付・年会費の納入がウェブサイト
からもできます。

■使用可能カード

VISA Card
Master Card



郵便局・銀行口座から
の振込み・自動引き落としも、今まで
どおりご利用いただけます。

●会費用 QR コード ●寄付用 QR コード

■会費・寄付のお振込先

①郵便振替

口座名／熊森基金 00970-8-137360
他金融機関からは 099店 当座0137360

②銀行振込

三井住友銀行 西宮支店 普通8558663
口座名／一般財団法人 日本熊森協会

個人会員

※ご入会の次年度からは、出来ましたら毎年
1月に年会費の納入をお願いいたします

①正会員

年会費6千円以上10万円未満（学生半額）
年2回会報 年1回事業報告書 送付
※ご入会年のみ月割納入が可能
（1千円より月払い可能です）

②応援会員

年会費1千円以上6千円未満
年2回会報 年1回事業報告書 送付

③特別会員

年会費10万円以上
特別会員特典あり。
年2回会報 年1回事業報告書 送付
（1万円より月払い可能です）

④家族会員

会員①～③の同居家族（会費不要）

法人会員

※詳細は事務局までお問い合わせください。

- ①企業会員（年会費一口6万円）
- ②団体会員（年会費一口3万円）

正会員・特別会員は月払いも可能です

【編集後記】

室谷：12月8、9日に訪れた北海道の後志地方と石狩市は今年初めての本格的な雪でした。スキーウェアをしっかりと持って行った息子は講演会の間、たっぷり雪遊び。石狩港ではソリで引っ張ってもらって移動。次はいつ北海道に行くのと言っています。

川崎：東京の林将之さんの講演で、地元のセンダンの木一本を守ろうと奮闘されたおはなしを聞きました。たった一本の木なのになんと大変だったことか。完全伐採は逃れたものの、ほぼ裸にされたセンダンが哀れでした。

米田：三重県大台町にて自然学校校長先生、町議員の方々と意見交流しました。「トラスト地が再エネ業者に対する牽制になっている」という地元の方の言葉。これ以上の再エネ開発を止める意味でもトラストのさらなる実現を。

脇井：日本奥山学会では11月に神戸の市街地の裏山である六甲・摩耶山を散策しました。思いのほかスギやスタジイ、アカガシの巨木が残っていて皆ビックリ！学会への新規入会者も出て皆ニコリ！さらに学会の輪を広げていきたいです。奥山の保全・再生に資する論文を募集中（^o^）/

吉井：東北に行ったとき、福島の方にたくさんの送電線が走っていて衝撃を受けました。他にも山肌を大きく削ってソーラーパネルが設置されたりと、至る所で森林が破壊されていました。やはりくまのりの支部が必要だと思いました。

工藤：今年は例年に比べればツアーイベントの多い年でした。下見や事前準備等大変なことも多かったけれど、実際に森に入ることで、守りたいという気持ちが沸き上がってきます。一人でも多くの都市部の子供たちに来てほしいです。

編集長 室谷 悠子（会長）
校正 川崎 浩（東京都副部長）
本部スタッフ 米田 真理子
脇井 真理子
吉井 陽子
工藤 真那

支部 北海道支部 青森県支部 宮城県支部 秋田県支部 群馬県支部 栃木県支部 埼玉県支部
(28) 東京都支部 神奈川県支部 山梨県支部 新潟県支部 石川県支部 長野県支部 岐阜県支部
三重県支部 愛知県支部 滋賀県支部 和歌山県支部 大阪府支部 鳥取県支部 岡山県支部
広島県支部 山口県支部 高知県支部 愛媛県支部 福岡県支部 宮崎県支部 熊本県支部



【表紙イラスト】
P3のクマの写真を
イラスト化したもの



実践自然保護団体

に ほん くま もり きょうかい
一般財団法人 日本熊森協会



本部 〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4 電話 0798-22-4190 FAX 0798-22-4196
受付時間：10時～18時（日・水・祝日は休み）

無断転載禁止